長野県赤穂高等学校商業科　平成 30 年（2018 年）2 月 2 日　発行

経済社会で役立つスキルを身につける
地域社会の問題を考え貢献する
困難な課題を突破する力を育てる

１０１年目の伝統　長野県赤穂高等学校

ビジネスをサイエンスする

商業科通信

vol. 104

平成29年度商業科３年総合実践・課題研究発表会を開催しました！

商業科の３年生は、今年度の学習活動のまとめとして「総合実践・課題研究発表会」を開催しました。当日は同窓会長様をはじめ駒ケ根市役所、商工会議所、ご支援いただいた駒ケ根市内の事業所様にご来校いただき観覧していただきました。発表は第１部総合実践「観光プランの企画～上伊那のよさ発見～」と題した６班の発表と、第２部課題研究の「やっちゃえ赤穂！プロジェクト２」「秘書検定」「広告と販売促進」「一般常識」の４つの講座から代表が１年間の活動を報告しました。地域の皆様に支えられ充実した活動ができました。
ありがとうございました。

駒ヶ根ソースかつ丼会様より卒業する３年生へ「ソースかつ丼を￥500 で食べられる券」をプレゼントしていただきました！

長野日報　1/31掲載

赤穂高

観光プラン企画や課題研究

商業科生徒が研究発表

赤穂高校（駒ケ根市）は30日、商業科3年生（79人）の総合実践・課題研究発表会を同校で開いた。生徒のほか、市や駒ケ根商工会議所の担当者、活動を通してお世話になった事業所や団体の関係者らを招待。これまでの学習の集大成としてグループごとに取り組んだ観光プランの企画や課題研究の成果を披露した。

3年生が商業科で学んできたことを総合的に生かす機会として毎年実施している取り組み。今年度の総合実践では生徒が25グループに分かれて上伊那地域の魅力を生かした観光プランを作成した。この日は校内で実施した事前のプレゼンテーションで評価が高かった6組が、それぞれ立案した企画を発表した。

総合実践で取り組んだ観光プランの企画を発表する赤穂高の生徒

飯島、駒ケ根、伊那の3市町を巡るツアーを企画したグループは「四季折々の自然に触れ合えるのがセールスポイント」という季節ごとの旅行プランを提案。両市の観光施設や工場の見学、ご当地グルメなどを盛り込んだコースを紹介し、ターゲットとする客層やテーマ、収支計画を示した。生徒からは「普段感じることのできない上伊那の魅力を感じることができた」「利益を考えてプランをつくるのは難しい」など、さまざまな声が聞かれた。

4講座の中から選択する必修の課題研究では、班ごとの活動を報告した。商品開発を通じて地域活性化を図る「やっちゃえ赤穂！プロジェクト」では、市内の事業者らと協力して開発した「駒かつソフト」や「揚げパンアイス」などの取り組みを紹介。開発の苦労話やイベント会場での販売についても触れ、「商品を通じていろんな人との出会いがあり良かった」と振り返っていた。（堀木俊典）

商業科のバトンは
後輩達に託された…。
３年生の皆さんお疲れ様でした。
１・２年生の皆さんがんばろう！

信濃毎日新聞　1/31掲載

手応えあり 地域観光プラン

赤穂高商業科生徒が発表会

班ごとに取り組みを紹介する赤穂高校の生徒たち

駒ケ根市の赤穂高校商業科の3年生約80人が30日、本年度の活動内容を紹介する「総合実践・課題研究発表会」を同校で開いた。同市名物のソースかつ丼のソースをかけたソフトクリームなど、市内企業の協力を得て開発した商品の販売結果をはじめ、授業内の取り組みの成果を班ごとに発表した。

最初に、商業科共通の課題として取り組んだ上伊那地方の観光プランを六つの班が紹介。都会の人に田舎の良さをアピールし、隠れた名産品の発掘を目的にプランを作った班は、JR伊那市駅周辺の商店街や飯島町の歴史民俗資料館・飯島陣屋などを組み込んだツアーを企画した。メンバーの小松彩さん(18)は「(地域の)新たな魅力を発見できた」と手応えを感じていた。

広告や販売促進など四つのテーマに分かれた課題研究も発表。ソースかつ丼のソースをかけたソフトクリームなどの商品を地元の祭りといった催しで目標個数を決めて販売し、完売したこともあったと報告した。

市内の商店9軒の協力を受け、生徒に割引などの特典が付くクーポンを作り、商店街活性化を目指す活動をした班も。湯沢尚斗さん(18)は「地元の商店の人と交渉した経験を、卒業後の社会人生活で生かしたい」と話していた。

〒399-4117 長野県駒ケ根市赤穂 11041-4　直通電話 0265-82-7408